



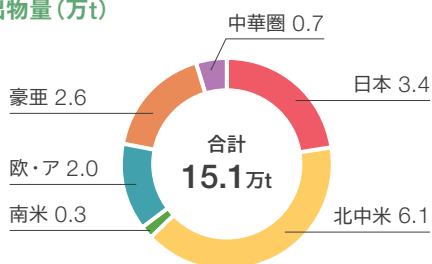
埋立廃棄物ゼロを推進し、循環型社会形成に貢献します。

■ 排出物量の削減活動

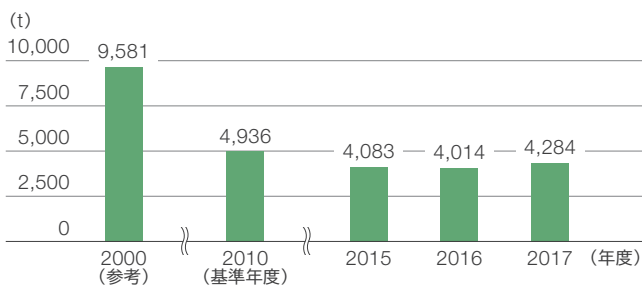
矢崎グループでは、5R^{*}の考えのもと製造工程におけるロス削減やリサイクルの推進、分別の細分化など排出物量の削減対策に取り組んでいます。2017年度の排出物量はグローバルで15.1万トンとなりました。また、国内矢崎グループの2017年度の廃棄物量は2010年度比13.2%減の4,284トンとなりました。今後も各地域の特性を考慮しながら、さらなる削減活動を進めていきます。

※5R: 循環型社会を推進するための矢崎グループの考え方
(Reduce/Reuse/Recycle/Refuse/Repair)

地域別の排出物量(万t)



廃棄物量の推移(国内)



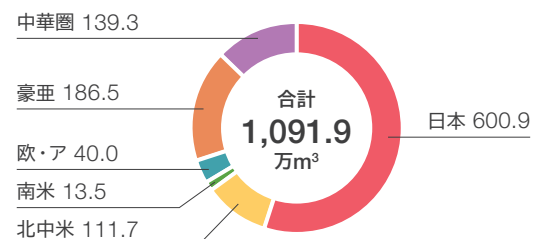
■ 水資源保全の取り組み

矢崎グループを代表する製品のひとつである電線の製造では、冷却工程などで多くの水を使用します。このため矢崎グループでは、グローバルで水使用量を把握するとともに、排水をできるだけ再利用することで、水使用量の削減に努めています。

2017年度の水使用量はグローバルで1,091万m³で、前年度比1.6%増となりました。設備冷却水の再利用や設備の定期的なメンテナンスによる漏水防止、雨水や食堂からの排水を植物の水やりへ利用するなど、各国・各地域の水環境事情に応じた節水活動に取り組んでいます。また、従業員へ節水に関する教育を行うなど啓発活動にも取り組んでいます。

2016年度からは『矢崎環境取り組みプラン』に「水資源の有効活用と影響の最小化」を取り組みテーマとして加え、汚水の流出を含めた「水リスク」への対応を加えることで水資源の保全に取り組みます。

地域別の水使用量(万m³)



TOPICS

循環型社会形成に向けた取り組み

研磨材変更による埋立廃棄物の削減

YCT(ルーマニア)では、製品塗装時に治具に付着した塗料を除去する際、砂の研磨材を吹き付けていました。この研磨材は耐久性がなく、数回使用すると研磨材として使用できなくなるため、埋立廃棄物として年間94トンが処理されていました。

そこで、研磨材を砂から金属系へ変更することにより、使用耐久回数が大幅に増え、埋立廃棄物ゼロを達成しました。また、砂の使用をやめたことで粉塵がなくなり、作業環境が向上しました。

食堂からの排水リサイクル

EMI(フィリピン)では、水資源の有効活用および汚水の流出リスクの低減を目的に、排水処理場を設置しました。この施設では、従業員が利用する食堂からの排水を浄化し、その一部を事業所内の植物の水やりへ利用しています。この活動により、排水の約40%が再生利用され、毎月320m³の水使用量が削減されました。今後も排水の再生利用の向上に努めます。

排水処理場

